

佐須の里山 収穫と冬しごと



11. 23 収穫祭



11. 16 粃すり・精米



10. 12 稲刈



12. 13 紅葉とお地蔵さん

佐須の田んぼの学校では十月上旬に稲刈りを終えた後、はざ掛けで乾燥させた稲を脱穀、精米。「新嘗祭（にいなめさい）」にあたる十一月二十三日には餅をついて収穫祭のお祝いをしました。十二月に入るとカニ山南のお地藏さんのあたりも紅葉真っ盛り。以前は堆肥用に落ち葉を利用していた山です。暮れには田んぼの学校で収穫した稲藁を使ってしめ飾り作りのイベントも行いました。少ししめらせたワラをたいて柔らかくしたら、足で押さえながらねじっていきます。細い縄でもなかなか力がある仕事で、農家では男の仕事だったとのこと。

正月明け、飾り終わったしめ飾りは佐須のどんど焼きに持ち込みます。



1.1 野川のツグミ（冬鳥）
撮影：里厚雄



12. 21 佐須の稲藁でしめ飾り作り



花の履歴書 30

戸部英貞 (絵・文)

ヒイラギモチ
(柊 藪)
モチノキ科



Ilex cornuta

古代ケルト人は、常緑の木は「永遠」赤い色は「情熱」を象徴すると同時に魔除けの力があると信じ、この樹を屋敷に植えて邪気を払ったという。この点では節分の日にヒイラギの枝に鰯の頭を添え、門口に飾って鬼の侵入を防ぐ日本の「柊鰯」の習慣と似ていて面白い。

今日でもイギリスの農村地帯を旅すると、どこへ行っても畑や牧場の周りが生け垣で囲まれ、その所々にセイヨウヒイラギやセイヨウサンザシの木が植え込まれているのを見かける。

刺のある葉や樹木の生け垣は、野生動物の侵入を防ぎ、家畜を護るためだが、ノウサギやノネズミ、小鳥たちにとって、恰好の隠れ家であり、餌場にもなっている。

クリスマスに飾られるクリスマスホリーにはいくつかの種類があり、ヨーロッパではセイヨウヒイラギ、アメリカではアメ

リカヒイラギが自生しており、それらが使われているが、日本にも同じ仲間 (Ilex) の赤い実を付けるモチノキやクロガネモチ、ヒメモチなどの自生があるが葉に棘がないためか使われることがない。

近年日本でも信仰とは関係がなくクリスマスリースが飾られるが、欧米の種類よりも棘の鋭い中国原産のヒイラギモチ(チャイニーズ・ホーリー)が使われ、道路の中央分離帯にも植えられているのを良く見かける。

これらはヒイラギの名が付いているが、葉の縁に鋭い刺状の鋸歯があることや雌雄異株、老木になると葉の棘がなくなるなどヒイラギとよく似ているが、どれもモチノキ科の植物。日本のヒイラギは全く別のモクセイ科の植物で黒紫色の実を付ける。

モミの木を残したい

昔(東京の近郊に、まだビルなどほとんど見られない、昭和の中ごろ)、武蔵野の冬枯れの雑木林を歩いていると緑の葉を持つ大木が印象に残った。その大木は赤い樹皮の目立つアカマツの木と壮麗な三角垂のモミの木だった。これら2種類の樹木とも数を減らしている。特にモミの激減は明治のころから始まり今は奥山までその傾向が広がってしまっている。その原因は、モミが大気汚染に弱いこと、加えて薪炭生産のための小さな伐採(ギャップ形成)が行われなくなったことにあるらしい。

モミは日本列島の固有種で、列島で自生するマツ科モミ属の5種のうちでは唯一寒冷地や高地以外でも見ることが出来る樹木だ。この木は幼木のうちは光の少ない暗い樹林の下でも長く耐えて残り、周囲の木が伐採や倒木により天空が空き光を十分得られるようになると一気に生長する性質がある。

調布でも昔は崖線上に少なくないモミが見られたはずだ。(記録では深大寺周辺に自生・檜山「武蔵野の植物」)しかし、今私が見つけることができたのは、深大寺参道近くのタクシー専用の駐車場の上の崖地に1本、人間樹林入口傍に1本だけだ。

モミの木は、材が白く無臭で殺菌作用もあるところから、「おひつ」などの食べ物に触れる道具や卒塔婆や棺桶の材料として使われる身近な木だった。また、他の種に混じって生え周囲の落葉樹林の林冠を突き破り林床の光条件に変化をもたらす生育形は、樹林に多様性をもたらすと言われる。

長く親しまれ、多様性をもたらし、そして何より美しいモミの木を残したい。
(小林冬樹)



カット：小林冬樹

昔の多摩川... ⑤

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ前号でお話したような洪水のときは「なぜ網(なで網)」という道具を使って岸辺に寄ってくる魚をすくうこともした。

昭和49年9月1日、狛江の大水害のときは消防団で警戒に出たが、このとき親父が作って家に置いてあった「なぜ網」の道具を持っていた。川べりで組み立てて使った。ヤマメ・金魚・ドジョウ・エビ・カニその他小魚がたくさん捕れた。捕った魚はから揚げにして食べた。

こういうふうには川が荒れたときは投網をするとゴミなどがひっかかってやりにくいので、なぜ網をやるんだ。

※なで網は、濁流をさけて川岸近くの静かな流れに身をよせるアユ・ウグイ・コイ・ナマズなど様々な魚がとれる。上手より下流に向けて川をなでるように引くのでこの名がある。



写真：「網漁具」より

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

10月19日(日) 晴れ 参加者9名

方形枠調査を行う。オオスズメバチが飛んでいたの、「動かずじっとして、ハチが遠のいたら低くなって移動する。もし刺されたらダッシュで逃げる」と根本さんからアドバイスをいただいた。

11月16日(日) 参加者6名

12/20の安全講習のフィールドが講師の事前下見でジャガの広場に決まったので、区域のロープはりとは伐採してほしくない木に印をつけた。7月にスズメバチがいて手がつけられなかったマテバシイ広場の下草刈りを行った。天気もよく湿度も低くて作業日和だった。11月にもかかわらず蚊に悩まされた。蚊取り線香を持ってこなかったことを皆で後悔。

12月21日(日) 晴れ 参加者7名

新たに2人が参加してくれ、前日に伐採した細枝や下草が積み上げられたまわりの粗朶柵作りと民家脇のアズマネザサ刈りの二手に分かれて作業をした。前日の安全講習の实地体験でこれまで手がつけられなかった区画を整備でき、作業が一気に進められてよかった。黄色い実の千両を初めて確認した。(安部)



黄色いセンリョウ



新メンバーも2人入って



竹を用いた粗朶柵



シロダモの花



ムラサキシキブの実

カニ山の会

10月11日(土) 晴れ 参加者6名

久しぶりに東樹林のササ刈り。その他アオキの剪定と樹林内の道の補修をした。ササ刈りをもう少し徹底してやりたかったのと、落ち葉がかなり積もっていたので、次回は落ち葉かきもやりたい。枯れ枝の山も片づけた、と作業したことがいっぱい。

調布市からの支援物資を受領した。

11月8日(土) 晴れ 参加者4名

落葉溜の柵とするために、落枝等で粗朶柵を作成。その斜面上部を落ち葉かきのためにササ刈り。その他ツゲ、カシなどの剪定を実施した。

野草園が何故か閉園のため、カギが掛っており、道具の取り出しができなかった。またキャンプ場北側緑地において、短く刈り込んだ草刈りの跡があった。カニ山の会では生態系を考慮して、草刈り範囲や刈り込み高さを決定していたので、市に確認をしたい。

12月13日(土) 晴れ 参加者9名

東樹林下段のクヌギ大木の枯れ枝を撤去。ハシゴをかけての高所作業となった。その他、ササ刈り、落ち葉かき。

(活動報告より)

この枝を落とす



茶の花 (ツバキの仲間)

若葉緑地の会

12月14日(日) 晴れ

若葉の森でクリスマスリースづくり。住宅地に囲まれている「若葉町3丁目第3緑地」で開催された、「クリスマスリース作りと暖かいお茶の会」に取材におじゃましました。

小学生から中学生を含む22人が参加。前もって準備しておいたリース土台に、松ぼっくりや緑の葉物、赤やオレンジ色の実ものを思い思いに飾り付け。付き添いのお母さんたちは、ペレットストーブを囲んで、暖かい紅茶とクッキーを頂ながら、秋の森を楽しんでいました。若葉緑地の会メンバーのみなさんは、「事前の声掛けが良かった。リース作りは初めての試みでしたが、毎年の行事にしていきたい」と語っていました。

残っていたイイギリの橙色の実などの自然素材は、12/21にカニ山で開催する「注連縄リース作り」のために、有難くいただいで帰りました(編集部・江刺)。

完成したリースを胸に記念撮影



ペレットストーブで紅茶を入れ、クッキーをいただいてほっと一息!



若葉の森3・1会

11月2日(日) 曇り 参加者8名

10月5日の作業は台風18号により中止。11月は初参加1名。サッカード少年2名飛入。前半は第1緑地でコンポスト柵整備、竹伐採、ゴミ拾い。後半は第2緑地で土留め杭追加、ササ刈採(通路確保)、ゴミ拾い。

キノコ



ササ刈り(通路確保)



12月1日(月)、18日(月) 参加者2名
崖線樹林地保全方法調査検討業務委託の意見交換会(於市役所) に出席。

12月6日(土) 参加者1名

調布市雑木林ボランティア講座秋講座最終回、若葉の森を当会が案内・活動をPR。

12月7日(日) 快晴 参加者6名

黄葉が映える冬の日、森は落葉の絨毯。六別坂、第1緑地内と第2緑地内の通路や階段の落葉かき、折れた枝を活用したコンポスト柵補修、竹の伐採を行いました。寒い日でしたが、坂道を通る方の暖かい声掛けでホットな気持ちになりました。

黄葉・紅葉



六別坂 落葉かき

12月20日(土) 参加者4名

市と雑木林連絡会の安全講習会に参加。◆調布市から保全活動用の道具・区分柵部品(棒、ロープ)を入手。感謝。(NOK)

11.20 (土) 雑木林保全のための安全管理講習会



松井講師のいでたち。道具は安全と使い易さを考えて収納。

市内5つの崖線樹林保全グループからなる「雑木林連絡会」主催で安全管理講習会が開かれた。連絡会としてこのような講習会は初めての試み。
森づくりフォーラム理事の松井一郎氏による「都市公園としての樹林地管理と安全管理の基本」についてのお話をうかがった。これから人間樹林地で実技指導へ。

ロケットストーブをご存知ですか

雑木林の保全作業で出る間伐材や小枝を燃料として使い、薪ストーブより格段に燃焼効率が高く、煙がほとんど出ず、灰も少量というスグレモノ。米国で発明、日本でも主にアウトドア用の小型ストーブを手作りする方法が紹介されて、だんだん広がっています。

写真①は手作り型。田んぼの学校の収穫祭や、暮れの注連縄づくりの交流会で使って、大好評だったそうです。上部の開口部に見えるパイプが「ヒートライザー」(断熱された煙突)で、この形がロケットの噴射口に似ていることが名前の由来。

写真②もロケットストーブですが、こちらは木質ペレット(端材やオガ屑を粉碎して粒状に固めた燃料)専用で、NPO「おうみ木質バイオマス利用研究会」が開発。秋に調布未来(あす)のエネルギー協議会が購入したものを、利用させていただきまし



①ちょうふ環境市民会議 会員さん自作



②木質ペレット型

た。若葉町自治会による国分寺崖線の坂道の清掃日と、若葉緑地の会のクリスマスリース作りの日。どちらも寒い日でしたが、皆さんでストーブを囲んで温かい紅茶を飲むと、身も心もポカポカして会話が弾みました。
カニ山のカマドは別として、緑地内での火の使用は禁止です。今回は、地面の枯葉も含め可燃物を遠ざけ、消火用の水を脇に用意し、灰は穴を掘って埋めるという基本を守って、若葉町3丁目第3緑地内でテスト的に使ってみました。火の始末だけではなく、ストーブに載せた葉缶や鍋にも十分注意が必要と感じました。今回の反省を踏まえ、ロケットストーブの利用について雑木林連絡会で検討してはどうでしょうか。(大村哲夫)

カマを使うときは膝を安定させ、草を握る手は逆手にならないように注意、親指が上になるように。



(松井講師は左利き)

ノコギリは向きと刃の角度に注意。樹が倒れる方向に人がいないことを確認。裏は整える程度に研ぐ。



この樹似ているネどつやって見分けるの

入間・樹林の会で植物プ子違いシリーズ
◎外来種のトウネズミモチとネズミモチの見分け方。

◆ネズミモチは、葉の真ん中で一番幅が広く、主脈は太いが葉が厚く側脈が見えにくい、実がつく枝色は白、実は黒色。

◆トウネズミモチは、葉の裏から透かすと主脈が太く側脈もよくわかる。実の枝色は赤、実は白っぽく見える。



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 1/18 (日) 9:30 ~ 15:00
- 2/15 (日) 9:30 ~ 12:30
- 3/15 (日) 9:30 ~ 12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 1/10 (土) 10:00 ~ 14:00
- 2/14 (土) 10:00 ~ 12:00
- 3/14 (土) 10:00 ~ 12:00
- ※ 1月は山開き、作業のあと、懇親会を行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/8 (日) 9:30 ~ 12:00
- 3/8 (日) 9:30 ~ 12:00
- ※ 1月はお休みです

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/1 (日) 9:30 ~ 12:00
- 3/1 (日) 9:30 ~ 12:00
- ※ 1月はお休みです

先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。問合せ：緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、ウェアハウスガーデン(柴崎)など。置き場所&応援カンパ募集中です!